

2009.AUGUST

あなたとFUJIを見つめるLIVE MAGAZINE

volume 33

# Face to Face

〔フェイストゥ フェイス〕

笑顔でつなぐコミュニケーション

櫓an 代表

久保田 常右

Josuke Kubota

GOURMET

出掛けよう

夏休みに楽しむグルメ

涼を呼ぶ日本蕎麦特集

こだわりの

おそば屋さんを紹介します

お気に入り SHOP

さの萬・バーベキューセット

ワラシナ・夏の快適グッズ

Book information

夏休みにはゆっくり読書ができますよ

Smile3

西山さんのご家族を紹介します

コミュニティ・フレンズ

FUJI ミラクルキッズ

Happy present

横井 照子 富士美術館 入館チケット



櫓an 代表  
久保田 常右 さん  
—くぼた じょうすけ—

## 若い力で 街を輝かせたい

富士市南松野にちよと変った名前前の市民グループがある。名前を『櫓an(やぐらあん)』と言う。活動の拠点は南松野の山裾にある通称、久保田農園内にある。

『櫓an』のある南松野は2009年4月の合併と共に富士市の一角になった。富士川町の合併前の人口は約17,000人、5,500所帯であった。平成の大合併で町の方針が注目されたが、富士川町は生活、仕事の関連が深い富士市との合併を決めた。しかし、合併前の富士市民は意外と富士川町について知らなかったのが実情だろう。両者を地理的に分ける富士川が存在。また富士川沿いに、糸魚川に至るフォッサマグナという中央地溝帯の存在が気分的に両者を隔てていたのかと想像するが、富士川町は合併により107年の歴史に幕を閉じた。富士川町は明治34年に岩淵、中之郷、木島の3村の合併で誕生し、昭和32年に松野村が遅れて合併した。それだけに富士川町には多様な歴史的地域特性があると言う。岩淵地区は東海道の要衝として江戸時代に発展した。中之郷地区が発展したのは明治22年に東海道路が新橋から静岡まで開通し、岩淵駅が出来たことが大きく寄与した。富士川を使って上流の木材を集荷し、加工し

て鉄道で出荷する製材業が大きく発展した。野田合板などが成長した時期だ。一方、松野はその歴史を鎌倉・室町時代に遡ると言う。

今回ご紹介する『櫓an』はそんな南松野地区、戦国時代の激戦場に因んだ血流川と言う不穏な名前前の小川が山裾を流れる所にある。異様なその名前ゆえ地元では血母川と呼ぶそうだが、ここにはのどかな日本の田園風景が広がっている。何処を見ても人工的な建物が目に入る昨今であるがここだけは別世界のようにのどかな雰囲気漂っている。今回取材をお願いしたのはグループの代表を務める久保田常右(32歳)さんである。久保田さんは株式会社イワセの役員という重責を担いながらグループの代表として活躍されている方だ。久保田さんには先ずは変った名前前の由来からお話を聞くことにした。

### どうして 櫓an(やぐらあん) と言う名前なのですか？

「久保田農園内に火の見櫓を建てグループのシンボルとしたのです。実はこの火の見櫓は昭和26年(1951年)11月、富士川町旧富士川第二分団(富士川第一中学校前)の為にドイツ人設計士により当時の価格で工費34万円を費やし建てられたものでした。高さは18.5メートルを誇り独特な形状は東海一美しいと謳われ、富士川町の町の繁栄を象徴していたのです。旧国1沿いに建てていたのですが平成11年(1999年)に耐震の関係で撤去することになりました。その時、当社の資材置き場にレッカー車を駐車させて欲しいと要請があり、話しを聞くと櫓はスクラップにしてしまうとの事でした。物心ついた時から櫓を見て来た父がそれを非常に残念に思い、取り敢えずそのまま当社の資材置き場で

保管させて頂くことにしました。」

「富士川町を長年見守り続けた火の見櫓は一つの景色、文化として町の人々の脳裏に焼きついていました。昭和30年代、火の見櫓は何処にでもあり珍しいものではありませんが、火の見櫓としての役割が終わった今となつては見る事は稀になつてしまいました。まして東海一美しいと言われ富士川町の防災を見守ってきた優美な櫓をそのまま消滅させて良いのかとの思いが日に日に募っていきました。」

単なる鉄の構築物ではなく、町の発展を見守ってきた文化的構築物と言う視点から、久保田さん親子はこの火の見櫓の保存を画策した。幾多の紆余曲折と5年の歳月を経て遂に火の見櫓は2005年2月15日、大勢のメンバーの協力を得て久保田農園の一角に見事に再建された。そして2006年『国の登録有形文化財』の認定を受けた。あの時、もし撤去のレッカー車と出会っていなかったら今日の『櫓an』は無かつたのかもしれない。なるほど、名前の裏に多くのヒストリーが隠された櫓(やぐら)とan(アン…的なもの)の組み合わせで、『櫓に心の拠所を置く人達』と解釈できる。実に粋なネーミングだと感心した。

### グループの活動、 そして目的はどんなものですか？

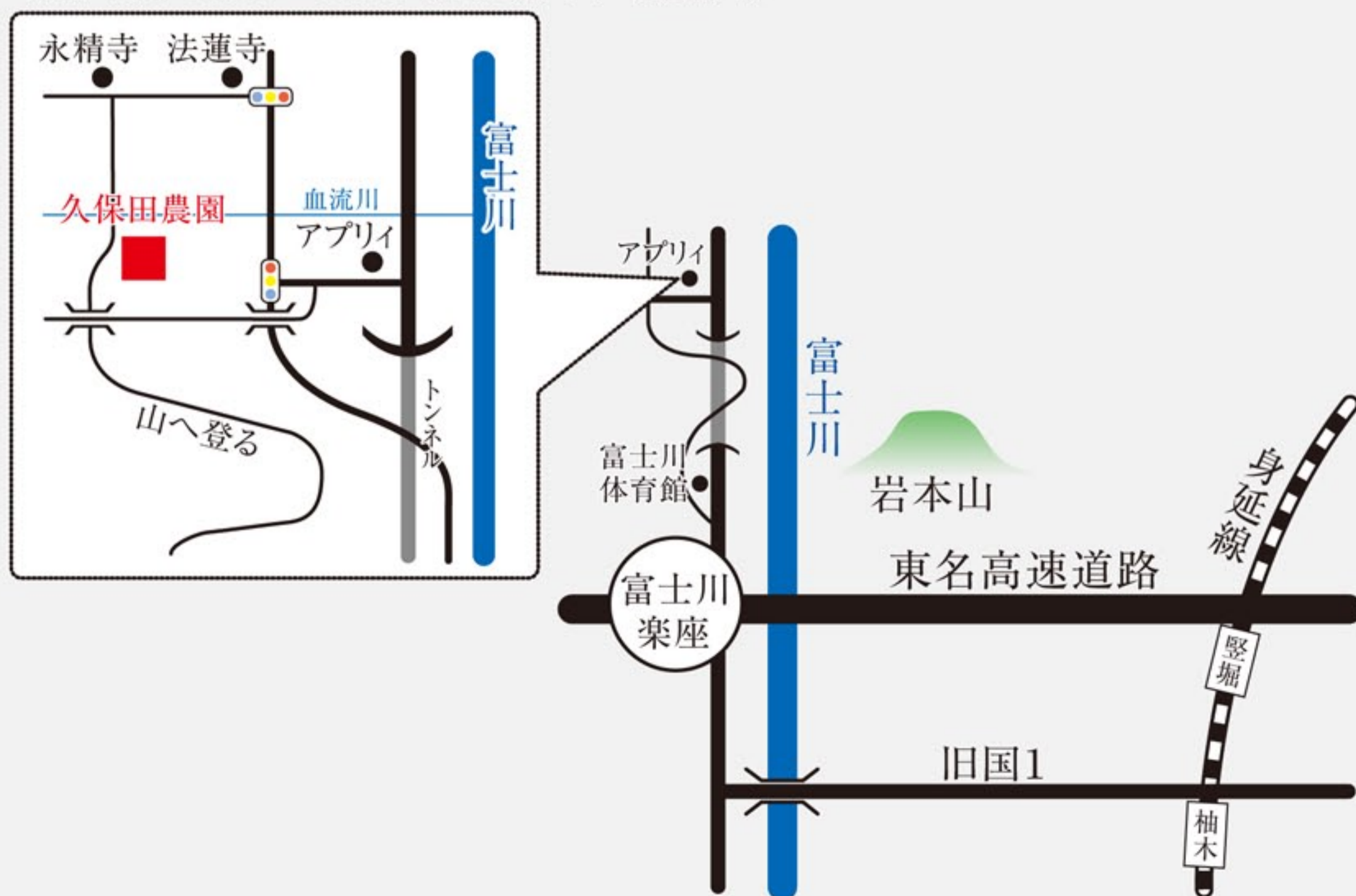
「グループ自体の設立は2004年でした。当時私も20代後半で、同年代の仲間とお酒を飲むとよく『今の世の中は暗いニュースが多い。将来に希望が持てない。』と言う話になる。しかし何時までも後ろ向きな事を言っているも始まらない。前向きな人間を集めて何かを変えてゆこう。それも将来ではなく我々が20代の内に行動しようと言う事になりました。ただ若者が集まっただけではなく、地域にとり

## 櫓an(やぐらあん)

場所：富士市南松野247 久保田農園内  
連絡先：090-7612-1780(代表:久保田)

## 無上帑(むじょうど)喫茶店

場所：久保田農園内  
連絡先：0545-69-3588  
営業時間：10:00~20:00(不定休[木曜定休])



『櫓an』により再建された火の見櫓は、昭和26年、静岡県庵原郡富士川町旧富士川第二分団に設置されていたものである。

ドイツ人の設計士により当時、工費34万円にて設置された火の見櫓は、高さ18.5メートルを誇り、独特な形状は東海一美しいと謳われた。火の見櫓の本来の機能を終え地震対策として撤去されるはずだったが、町おこしのシンボルとして2005年2月15日建築基準法による工作物の建築確認をとり、富士川町南松野の久保田農園に村おこしのシンボルとして再建された。

上記写真はクリスマスアートプロジェクト「光のクリスマスガーデン」イベントの開催模様。火の見櫓イルミネーションやステンドグラスなどの光を使った演出のほか、雑貨・飲食などの出店、音楽演奏などが行われた。

社会的に意義のある取り組みが継続的に出来ないかを考えました。当時仲間内で失われつつある地域文化に非常に危機感を感じていたので、文化を残す活動をしよと事になりました。広い意味で文化を捉え、相手を思いやる日本人の心、横の繋がりを大切にする人間関係、そして生活に馴染んだ建築物や自然の風景も含め、昔から日本人が大切にしてきたものを継承してゆこうと考えたのです。」

「主なイベントとして5月のこどもの日に開かれる『こいのぼりイベント』と12月に開かれる『クリスマス・アートプロジェクト』の2つを主軸にしています。他にも『お茶会』や『夏休み・ふれあい学校』など、親子参加型の体験学習を開催しました。学校では経験することができない体験学習を通して将来、地域の中心となる子供達に自然の大切さ、さらに科学や生物への興味や夢を育むきっかけになればと願って企画しました。イベントを開催するにあたりメンバーは勿論、地域の人々も人達に助けて頂きました。12月の『クリスマス・アートプロジェクト』は樽や園内をイルミネーションで飾り音楽や模擬店などを楽しめるイベントにしました。実はイルミネーション費用もメンバーの小遣いから拠出し、毎年少しずつ買い足しています。準備も7月からやるんですよ。勿論、大変な点も多々ありますが自分達の自由な発想でやりますので、やること自体を皆で楽しんでいきます。大勢の人が来て楽しんでくれば、それが我々メンバーの喜びでもありません。苦楽を共にした者達こそが本当の兄弟の様ななれると私は思います。また同じ想いを次世代に継承してゆく事が文化の継承だと考えています。」

シンボルである樽を建て、久保田農園内もメンバーの協力で徐々に整備されて

いった。園内には『無上帙』（むじょうじ）という喫茶店が併設されている。古民家の木材をふんだんに使った店内の大窓からは南松野の田園風景と富士山を一望することができ、日本のいなかの原風景を彷彿とさせる。また園内には2種類の湧き水を汲むことができ、井戸、随所に配された石、そして芝と木々の緑が溢れている。

久保田農園のある場所は年間300万人が立ち寄るといふ富士川楽座より車で5分ほどの所にあり、もつと多くの人が訪れてくれればと久保田さんは願っている。

「大きな文化事業をしている訳ではないのですが、毎日少しずつ人が来てくれる場所にしてゆきたいのです。例えば富士山観光に来た人が立ち寄ってお茶を楽しんだり、近所の人がゆつくりしたい気分の時にぶらっと来たり。私達のやっていることは小さな事ですが、点が面になる様に広がって欲しいと願っています。文化の継承とは、何か物を残すことではなく人と人が触れ合い伝えてゆく事だと思っています。」

自主的に行う活動だから地域の垣根が全く無いのが『樽an』の特色でもある。現にイベントを開催する人達は様々な場所から集まってくる。『樽an』には昔は当たり前だった豊かな心が溢れているように思う。

ゆつくりと空を眺め、山や緑が綺麗だと感じる時間を私達はどのくらい持っているのだろうか。人と人が信頼関係を築くには時間がかかる。しかし一度築いた関係は他の何にも変え難い財産になる。お金では買えないこの様な財産を多く持つことが出来れば、人はきつと幸せを感じる事が出来るとだろう。



①こいのぼりイベント。最近は見かけなくなった鯉幟。子供たちに触れてもらおうと毎年こどもの日に開催。

②・③富士とやぐらのO-CHA(お茶)祭り。田園風景の中でお茶に親しみ、心豊かな時間を過ごそうと6月に開催された。

④・⑤・⑥クリスマスアートプロジェクト。無上帙(喫茶店)内にステンドグラスが飾られ、独特なあかりの世界を演出。富士市で活躍するジャンベ&ダンスグループ=アイニケの演奏。フルート演奏会。